

活動名	KiboCUBE Academy on-site workshop 2025
-----	--

貢献・連携類型	3. 国際連携
---------	---------

報告者	航空宇宙工学科	学科	職位	准教授	氏名	山崎 政彦
-----	---------	----	----	-----	----	-------

概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。

本活動は、JAXAと国連宇宙局（UNOOSA）が共同で推進する「KiboCUBE Academy」の一環として実施された、超小型衛星教育プログラムである。本ワークショップでは、超小型人工衛星（CubeSat）の設計・開発・運用に関する基礎から応用までを体系的に学ぶ「HEPTA-SAT」教材を用い、ニューサウスウェールズ大学（UNSW Sydney）において対面形式で実習を行った。参加者はオーストラリア国内外の大学生・大学院生、若手研究者など約20名で、講義と実験を通して衛星システム設計の考え方、電源・通信・データ処理・姿勢制御などの各サブシステムの機能、統合・試験プロセスを学んだ。また、人工衛星教育を通じた国際人材育成および宇宙分野における多国間連携の推進を目的に、教育者・研究者間での意見交換やネットワーキングも実施した。日本大学は講師として教育プログラムの設計および運営を担当し、JAXAおよびUNOOSAと連携して、参加者が実際の衛星開発に必要な設計思考と国際的な視点を身につけることを重視した教育を行った。活動は予定通り円滑に実施され、参加者の理解度・満足度も高く、今後のKiboCUBE Academyの継続的な発展に資する成果を得た。

今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。

本研修により、参加者は衛星開発プロセスを体験的に理解し、理論と実践を統合した学びを得ることができた。特に、国際的な教育プログラムとしてのKiboCUBE Academyの枠組みの中で、超小型衛星教材が教育現場で効果的に活用されることを確認できた点は大きな成果である。また、本活動を通じて、JAXA・UNOOSA・UNSWなどの機関との協力体制が強化され、今後の国際的な教育・研究連携の発展が期待される。将来的には、アジア太平洋地域を中心とした連携大学との共同カリキュラム化や、地域社会・教育機関への波及を見据えた国際的教育モデルの構築を進める計画である。本活動は、宇宙工学を通じた国際社会への貢献という観点からも高く評価され、今後も本学として社会連携・国際貢献の一環として継続的に推進していく。

対象・相手先	全世界の学生・教職員
--------	------------

協定書・依頼の有無（具体的に記入）
 主催・協力：JAXA、UNOOSA（国連宇宙局）、ニューサウスウェールズ大学、大学宇宙工学コンソーシアムグローバル、日本大学

実施日時	2025年10月4日
------	------------

場所	ニューサウスウェールズ大学
----	---------------



本学からの参加者
 航空宇宙工学科：山崎政彦
 大学院生2人

